

## 令和7年度公共事業再評価項目表

事業主体	新潟県	事業名	大規模特定砂防等事業（通常砂防事業）
事業箇所	長岡市栃尾泉	箇所名	水上沢（みずかみさわ）

### 1 事業の概要

<p><b>① 事業の目的・効果・必要性等</b></p> <p>水上沢は、新潟県長岡市栃尾泉地内の刈谷田川沿いに形成された流域面積0.25km<sup>2</sup>の土石流危険溪流であり、栃尾・下田丘陵斜面を流下後、栃尾泉集落を貫流し、刈谷田川に合流する。</p> <p>当溪流は溪床勾配1/14以上の急勾配であり、ひとたび洪水が発生すれば、土石流となって一気に流下する危険性が高い。また、当該流域では平成16年中越地震時の災害関連事業によって地すべり対策事業（法面対策工等）が実施されているものの、砂防施設や治山施設は設置されておらず、土石流対策は未整備の状態にある。</p> <p>このため、本事業により不透過型堰堤工(H=10.0m、L=41.0m)を整備し、有害土砂、流木の抑制・補足を図り、土砂災害対策を進めるものである。</p>																																								
<p><b>② 事業内容</b></p> <p>砂防堰堤（不透過型）N=1基 H=10.5m、L=40.0m</p> <p>流木捕捉工 1基 H=4.0m、L=29.0m</p>	<p><b>③ 残事業内容</b></p> <p>砂防堰堤（不透過型）N=1基 H=10.5m、L=40.0m</p> <p>流木捕捉工 1基 H=4.0m、L=29.0m</p>																																							
<p><b>④ 総事業費</b></p> <p>228百万円 [203百万円]</p>	<p><b>⑦ 進捗率（事業費ベース）</b></p> <p>27.6% (=63/228)</p>																																							
<p><b>⑤ 執行済事業費</b></p> <p>63百万円</p>	<p><b>⑧ 現在の費用対効果(B/C) [基準年 R7年]</b></p> <p>全体B/C=20.13(4,489/223)</p> <p>残事業B/C=27.86(4,209/151)</p>																																							
<p><b>⑥ R7年度以降残事業費</b></p> <p>165百万円</p>	<p><b>⑨ 従前の費用対効果(B/C) [基準年 R4年]</b></p> <p>B/C=17.68(3,359/190) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">当初</span>・計画変更</p>																																							
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;"><b>⑩ 便益の内訳</b></td> <td style="width: 35%; text-align: center;">(全体事業)</td> <td style="width: 35%; text-align: center;">(残事業)</td> </tr> <tr> <td>人家の便益</td> <td style="text-align: center;">628万円</td> <td style="text-align: center;">589百万円</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">[748百万円]</td> <td></td> </tr> <tr> <td>人的被害の便益</td> <td style="text-align: center;">3540百万円</td> <td style="text-align: center;">3321百万円</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">[2202百万円]</td> <td></td> </tr> <tr> <td>道路の便益</td> <td style="text-align: center;">59百万円</td> <td style="text-align: center;">55百万円</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">[52百万円]</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他の便益</td> <td style="text-align: center;">262百万円</td> <td style="text-align: center;">244百万円</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">[357百万円]</td> <td></td> </tr> </table>	<b>⑩ 便益の内訳</b>	(全体事業)	(残事業)	人家の便益	628万円	589百万円		[748百万円]		人的被害の便益	3540百万円	3321百万円		[2202百万円]		道路の便益	59百万円	55百万円		[52百万円]		その他の便益	262百万円	244百万円		[357百万円]		<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;"><b>⑪ 費用の内訳</b></td> <td style="width: 35%; text-align: center;">(全体事業)</td> <td style="width: 35%; text-align: center;">(残事業)</td> </tr> <tr> <td>建設費用</td> <td style="text-align: center;">228百万円</td> <td style="text-align: center;">165百万円</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">[203百万円]</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="padding-top: 10px;">なお、対策工事の費用の中には測量・設計・調査、用地買収費等も含まれる。</td> </tr> </table>	<b>⑪ 費用の内訳</b>	(全体事業)	(残事業)	建設費用	228百万円	165百万円		[203百万円]		なお、対策工事の費用の中には測量・設計・調査、用地買収費等も含まれる。		
<b>⑩ 便益の内訳</b>	(全体事業)	(残事業)																																						
人家の便益	628万円	589百万円																																						
	[748百万円]																																							
人的被害の便益	3540百万円	3321百万円																																						
	[2202百万円]																																							
道路の便益	59百万円	55百万円																																						
	[52百万円]																																							
その他の便益	262百万円	244百万円																																						
	[357百万円]																																							
<b>⑪ 費用の内訳</b>	(全体事業)	(残事業)																																						
建設費用	228百万円	165百万円																																						
	[203百万円]																																							
なお、対策工事の費用の中には測量・設計・調査、用地買収費等も含まれる。																																								

※ ④、⑩、⑪の[ ]内は「当初」又は「直近の計画変更」の際の数値

※ 総事業費：事業に必要な調査設計費、用地買収費、工事費、事務的経費等の総額

※ 総費用：総事業費に維持管理費(下水道事業は更新費用も含む)を加え、その金額を現在価値化したもの

## 2 評価の視点

### ⑫事業の進捗が遅れている理由(遅れを取り戻す工夫や取組状況も併せて記載のこと)

工事用道路の工事着手後、隣接地権者から工事車両による騒音・振動のため強い要望が出て工事用道路を利用することができなくなった。

このため、工事用道路を地権者からの離隔を確保する計画に見直すことになり、この修正設計及び地元調整に約4年を要し、本年度に了解が得られた。

この一連の対応により、事業期間の延伸と事業費の増加が生じることとなった。

### ⑬事業を継続することにより発揮される効果

当該流域は流域面積0.25km<sup>2</sup>、平均溪床勾配1/14.0の土石流危険溪流である。溪流内に砂防設備はなく、洪水時に溪床堆積物が土石流化した場合、栃尾泉集落を含む保全対象へ甚大な被害を及ぼすおそれがある。計画している砂防堰堤を完成させることで、土石流災害から住民の命と暮らしを守り、安全で安心して暮らせる地域を実現する。

### ⑭便益として貨幣換算していないが、事業により見込まれる効果

砂防堰堤を整備することにより土石流災害のリスクを低減することで、地域住民の安心感の向上に寄与する。

### ⑮社会経済情勢の変化

特になし

### ⑯B/Cの変化の要因(需要予測等の変化、全体事業費の変化要因について記載)

工事用道路の計画変更により、総事業費が上昇した。

精神的損害額の増額に伴い、便益が増加したためB/Cが上昇した。

### ⑰コスト縮減、代替案の可能性

経済性や施工性等を比較して、効率的な施設計画としており、現時点においては代替案による計画見直しの予定はない。

### ⑱関係機関等の意向、関連事業と調整状況等

用地買収は当該区域が砂防指定地に指定されたのち、令和8年度に完了の見込みであり、現在順調に事業を進めている。

## 3 今後の実施方針(案) ※今後の見通しを併せて記載のこと

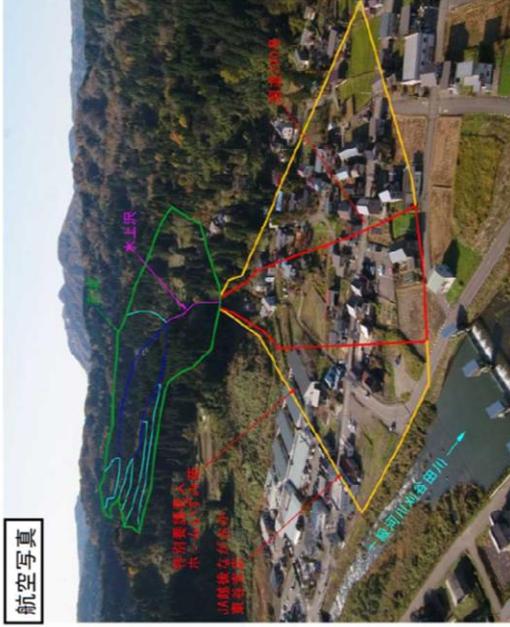
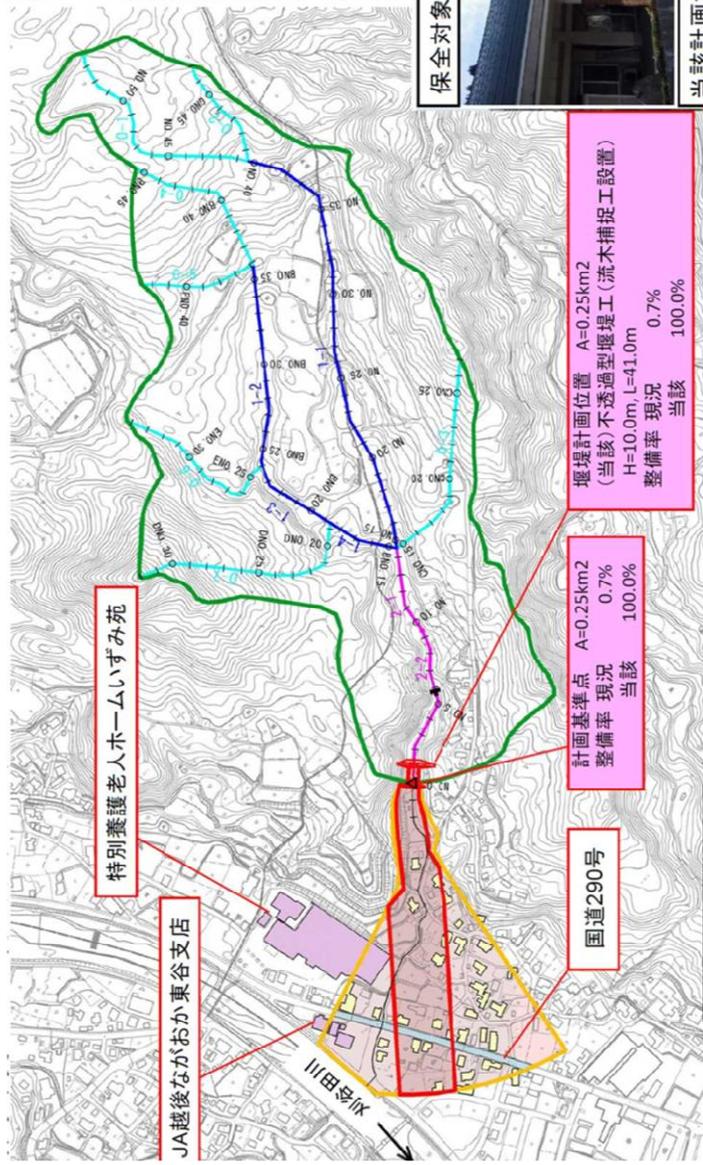
現在は、砂防指定地の申請に向けた境界測量をしており、完了後に砂防指定地申請をする予定である。また、地域関係者の協力も得られており、令和8年度には工事用道路に着手する予定であり、順調に事業を進めている。従って、土砂災害から住民の命と暮らしを守るため、事業を継続する必要がある。

#### 4 経緯

区分	当初(R4)	今回再評価(R7)	
工期	R4～R7 (2022年～2025年)	R4～R11 (2022年～2029年)	
総事業費	203百万円	228百万円	
事業内容	(事業内容) ・砂防堰堤 1 基 H=10.0m、L=41.0m	(事業内容) ・砂防堰堤 1 基 H=10.5m、L=40.0m ・流木捕捉工 1 基 H=4.0m、L=29.0m	(残事業内容) ・砂防堰堤 1 基 H=10.5m、L=40.0m ・流木捕捉工 1 基 H=4.0m、L=29.0m
費用対効果 (B/C)	B/C=17.68 (=3,359/190)	B/C=20.13 全体事業 (=4,489/223) B/C=27.86 残事業 (=4,209/151)	



流域図・図面・写真  
水上沢



## 令和7年度公共事業再評価項目表

事業主体	新潟県	事業名	大規模特定砂防等事業（通常砂防事業）
事業箇所	魚沼市須原地内	箇所名	西村川（にしむらがわ）

### 1 事業の概要

<b>① 事業の目的・効果・必要性等</b> 西村川流域は、新潟県魚沼市須原地先に位置する信濃川水系破間川支溪天神川の支溪であり、土石流危険渓流（Y202-I-22）に指定されている。 流域の地質は新第三紀七谷層（凝灰岩・泥岩）に該当し、表層には段丘堆積物及び地すべり崩積土が分布する。中、下流域の緩勾配斜面は圃場整備済であるが、山腹及び支渓流域の荒廃が進行しつつあり、土石流の発生が懸念される。 しかし、整備済の既設1号堰堤地点（砂防計画基準点）における整備率は32.37%と低く、超過洪水・土砂流出に際しては、不安定土砂及び流木が谷出口下流へ流出する危険性が高い状況にある。また、谷出口下流の保全対象は地域の中心市街地にあたり、地域の重要インフラが集中することから、災害発生時には当該地域・周辺地域へ広大かつ甚大な被害が想定される。 そのため、本事業により砂防堰堤1基、土石流導流堤1基および流木捕捉工1基を整備し、土砂災害対策を進めるものである。																																					
<b>② 事業内容</b> 流木捕捉工（第1号砂防堰堤） 1基 第2号砂防堰堤・導流堤工 1基 H=5.5m、L=62.0m、V=2,094m <sup>3</sup>	<b>③ 残事業内容</b> 第2号砂防堰堤・導流堤工 1基 H=5.5m、L=62.0m、V=2,094m <sup>3</sup>																																				
<b>③ 総事業費</b> 369百万円 [313百万円]	<b>⑦ 進捗率（事業費ベース）</b> 19.2% (= 71/369)																																				
<b>⑤ 執行済事業費</b> 71百万円	<b>⑧ 現在の費用対効果(B/C) [基準年 R7年]</b> 全体B/C=36.14(12,507/346) 残事業B/C=44.64(11,831/265)																																				
<b>⑥ R7年度以降残事業費</b> 298百万円	<b>⑨ 従前の費用対効果(B/C) [基準年 R3年]</b> B/C=40.82(11,390/279) (当初)・計画変更																																				
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;"><b>⑩ 便益の内訳</b></td> <td style="width: 35%; text-align: center;">(全体事業)</td> <td style="width: 35%; text-align: center;">(残事業)</td> </tr> <tr> <td>人家の便益</td> <td style="text-align: center;">1,638百万円</td> <td style="text-align: center;">1,549百万円</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">[2,069百万円]</td> <td></td> </tr> <tr> <td>人的被害の便益</td> <td style="text-align: center;">8,563百万円</td> <td style="text-align: center;">8,098百万円</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">[5,399百万円]</td> <td></td> </tr> <tr> <td>道路の便益</td> <td style="text-align: center;">198百万円</td> <td style="text-align: center;">188百万円</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">[488百万円]</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他の便益</td> <td style="text-align: center;">2,108百万円</td> <td style="text-align: center;">1,996百万円</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">[3,434百万円]</td> <td></td> </tr> </table>	<b>⑩ 便益の内訳</b>	(全体事業)	(残事業)	人家の便益	1,638百万円	1,549百万円		[2,069百万円]		人的被害の便益	8,563百万円	8,098百万円		[5,399百万円]		道路の便益	198百万円	188百万円		[488百万円]		その他の便益	2,108百万円	1,996百万円		[3,434百万円]		<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;"><b>⑪ 費用の内訳</b></td> <td style="width: 35%; text-align: center;">(全体事業)</td> <td style="width: 35%; text-align: center;">(残事業)</td> </tr> <tr> <td>建設費用</td> <td style="text-align: center;">346百万円</td> <td style="text-align: center;">265百万円</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">[279百万円]</td> <td></td> </tr> </table> なお、対策工事の費用の中には測量・設計・調査、用地買収費等も含まれる。	<b>⑪ 費用の内訳</b>	(全体事業)	(残事業)	建設費用	346百万円	265百万円		[279百万円]	
<b>⑩ 便益の内訳</b>	(全体事業)	(残事業)																																			
人家の便益	1,638百万円	1,549百万円																																			
	[2,069百万円]																																				
人的被害の便益	8,563百万円	8,098百万円																																			
	[5,399百万円]																																				
道路の便益	198百万円	188百万円																																			
	[488百万円]																																				
その他の便益	2,108百万円	1,996百万円																																			
	[3,434百万円]																																				
<b>⑪ 費用の内訳</b>	(全体事業)	(残事業)																																			
建設費用	346百万円	265百万円																																			
	[279百万円]																																				

※ ④、⑩、⑪の [ ]内は「当初」又は「直近の計画変更」の際の数値

※ 総事業費：事業に必要な調査設計費、用地買収費、工事費、事務的経費等の総額

※ 総費用：総事業費に維持管理費(下水道事業は更新費用も含む)を加え、その金額を現在価値化したもの

## 2 評価の視点

<p>⑫事業の進捗が遅れている理由（遅れを取り戻す工夫や取組状況も併せて記載のこと）</p> <p>地質調査の結果、堰堤の基礎地盤に軟弱層が確認されたことから本堤の構造を一部変更し、基礎処理工を追加する必要性が生じた。</p> <p>この対応により、事業期間の延伸が必要となった。</p>
<p>⑬事業を継続することにより発揮される効果</p> <p>当該溪流は表層に段丘堆積物及び地すべり崩積土が分布し、山腹及び支流域の荒廃が進行しつつあり、土石流の発生が懸念される。</p> <p>本事業により砂防堰堤を整備することにより土砂災害から住民の命と暮らしを守り、安全で安心して暮らせる地域を実現する。</p>
<p>⑭便益として貨幣換算していないが、事業により見込まれる効果</p> <p>砂防堰堤を整備することにより土石流災害のリスクを低減することで、地域住民の安心感の向上に寄与する。</p> <p>国道252号の保全により、当該地域における住民生活や物流・交流ネットワークの安全を確保することができる。</p>
<p>⑮社会経済情勢の変化</p> <p>特になし。</p>
<p>⑯B/Cの変化の要因（需要予測等の変化、全体事業費の変化要因について記載）</p> <p>精神的損害額の増額に伴い便益が上昇した。</p> <p>基礎処理工の追加により事業費が増加したためB/Cが低下した。</p>
<p>⑰コスト縮減、代替案の可能性</p> <p>経済性並びに施工性等を比較して、効率的な実施計画としており、現時点においては代替案による計画見直しの予定はない。</p>
<p>⑱関係機関等の意向、関連事業と調整状況 等</p> <p>地元住民は事業の早期完成を強く要望しており、事業に対して協力的である。なお、調整を必要とする関連事業は特になし。</p>

## 3 今後の実施方針（案） ※今後の見通しを併せて記載のこと

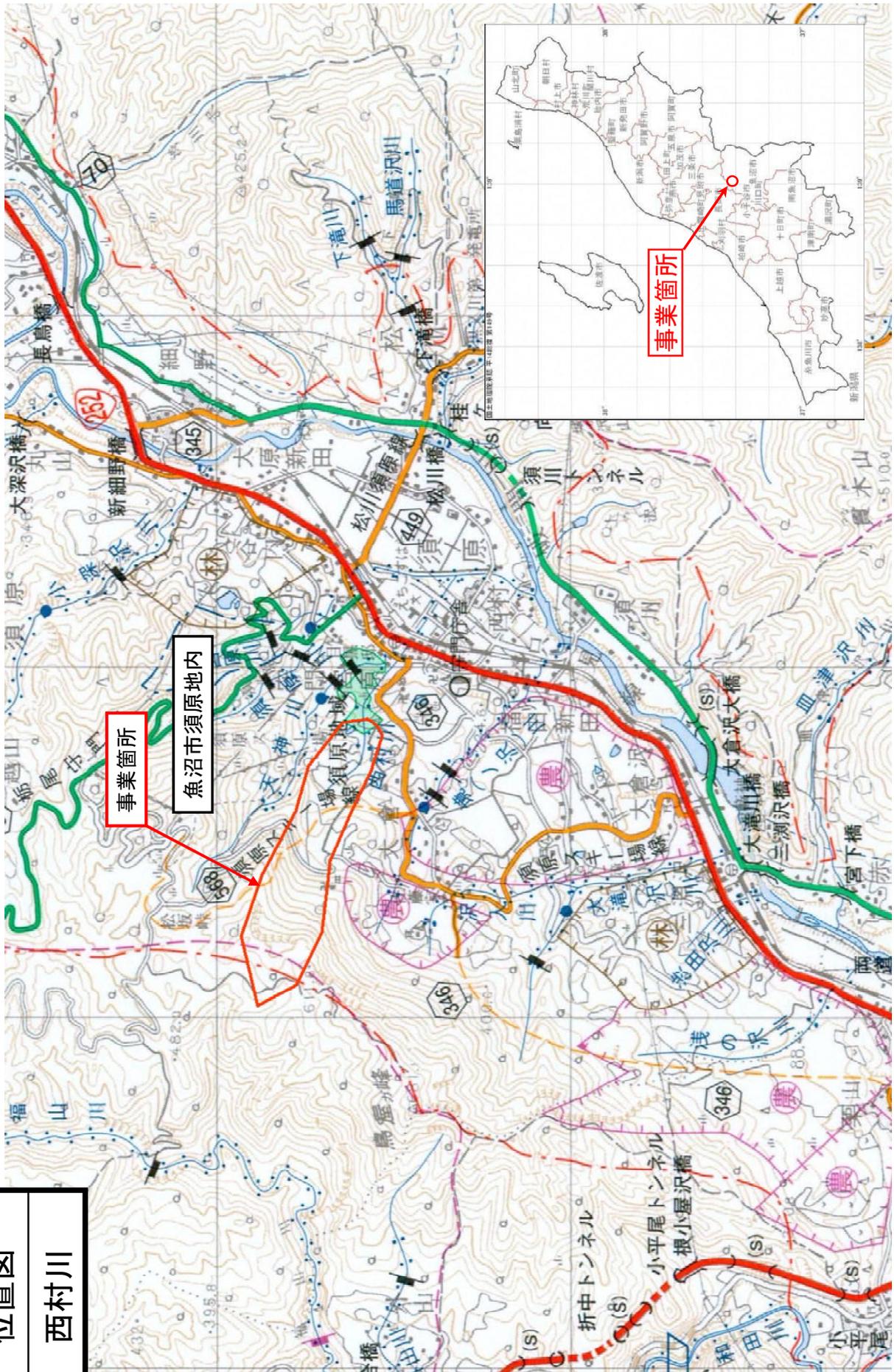
これまでに第1号砂防堰堤の流木捕捉工1基を完了させており、令和7年度に用地買収を行った後に第2号砂防堰堤上流の土石流導流堤工に着手予定である。

事業に対して地元関係者は協力的であることから、円滑な進捗を図りながら早期完成を目指す。

#### 4 経緯

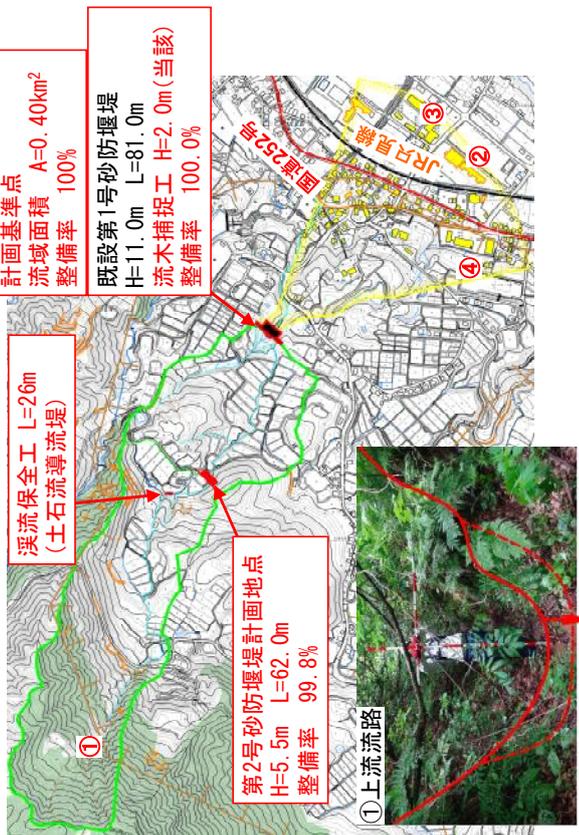
区分	当初(R3)	今回再評価(R7)	
工期	R3～R9 (2021～2027)	R3～R13 (2021～2031)	
総事業費	313百万円	369百万円	
事業内容	(事業内容) 流木捕捉工(第1号砂防堰堤) 1基 第2号砂防堰堤・導流堤工 1基	(事業内容) 流木捕捉工(第1号砂防堰堤) 1基 第2号砂防堰堤・導流堤工 1基	(残事業内容) 第2号砂防堰堤・導流堤工 1基
費用対効果(B/C)	B/C=40.82 (=11,390/279)	B/C=36.14 全体事業 (=12,507/346) B/C=44.64 残事業 (=11,831/265)	

位置図
西村川



# 流域図・図面・写真

## 西村川



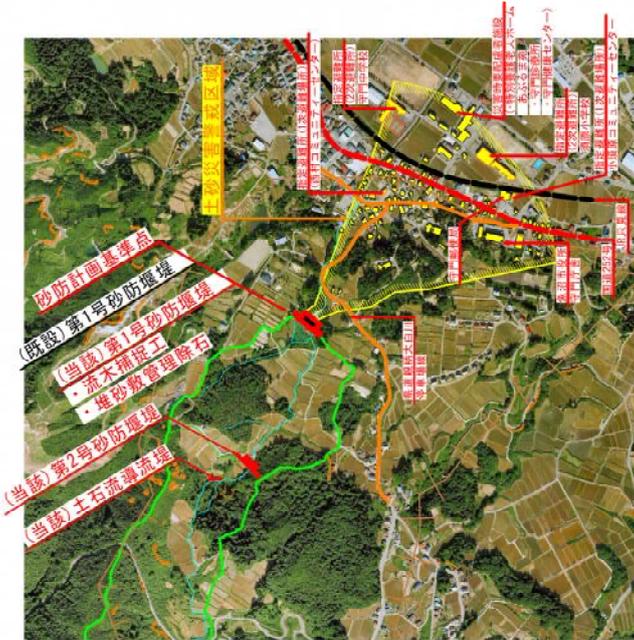
② 避難所(須原小学校)



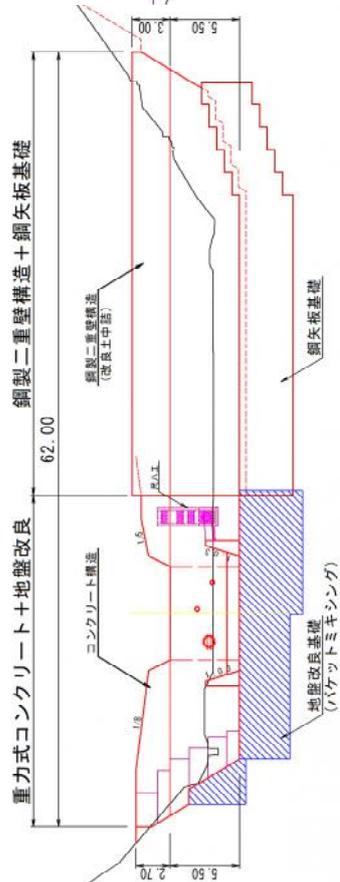
③ 守門診療所・健康センター



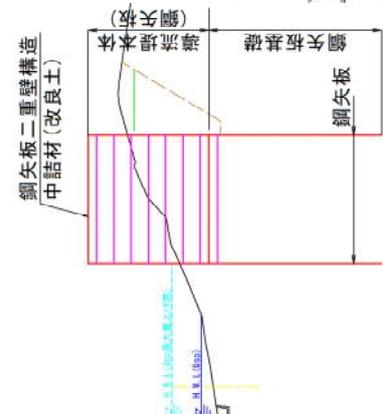
④ 魚沼市役所守門庁舎



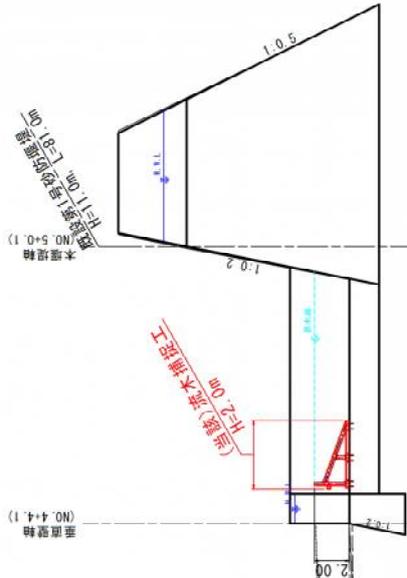
第2号堰堤 本堤正面図



土石流導流堤 断面図



第1号堰堤(流木捕捉工) 断面図



## 令和7年度公共事業再評価項目表

事業主体	新潟県	事業名	大規模特定砂防事業（通常砂防事業）
事業箇所	南魚沼市大桑原地内	箇所名	高田入沢（たかだいらさわ）

### 1 事業の概要

<b>① 事業の目的・効果・必要性等</b> 高田入沢は、南魚沼市の北東部に位置する流域面積0.23km <sup>2</sup> の土石流危険溪流である。 平成16年7月の豪雨により土石流が発生し、大桑原地区への土砂流出被害が発生している。また、保全対象対象としては人家17戸、県道345mがあり、災害時には甚大な被害が生じる恐れがある。 このため、本事業により砂防堰堤2基を新たに整備することにより、土砂災害対策を進めるものである。																									
<b>② 事業内容</b> 砂防堰堤工 N=2基 A堰堤H=6.5m L=59.0m (V=1,655m <sup>3</sup> ) B堰堤H=6.5m L=62.0m (V=1470m <sup>3</sup> )	<b>③ 残事業内容</b> 砂防堰堤工 N=1基 (A堰堤) A堰堤H=6.5m L=59.0m (V=1,655m <sup>3</sup> )																								
<b>④ 総事業費</b> 470百万円 [330百万円]	<b>⑦ 進捗率（事業費ベース）</b> 70.2% (=330/470)																								
<b>⑤ 執行済事業費</b> 330百万円 [140百万円]	<b>⑧ 現在の費用対効果(B/C)〔基準年 R7年〕</b> 全体B/C=3.46(1,931/558) 残事業B/C=12.12(1,615/133)																								
<b>⑥ R7年度以降残事業費</b> 140百万円 [190百万円]	<b>⑨ 従前の費用対効果(B/C)〔基準年 R3年〕</b> B/C=3.13(1,045/334)																								
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;"><b>⑩ 便益の内訳</b></td> <td style="width: 20%; text-align: center;">(全体事業)</td> <td style="width: 20%; text-align: center;">(残事業)</td> </tr> <tr> <td>人家の便益</td> <td style="text-align: center;">255百万円 [187百万円]</td> <td style="text-align: center;">213百万円</td> </tr> <tr> <td>人的被害の便益</td> <td style="text-align: center;">1,556百万円 [731百万円]</td> <td style="text-align: center;">1,302百万円</td> </tr> <tr> <td>道路の便益</td> <td style="text-align: center;">87百万円 [85百万円]</td> <td style="text-align: center;">73百万円</td> </tr> <tr> <td>その他の便益</td> <td style="text-align: center;">33百万円 [42百万円]</td> <td style="text-align: center;">27百万円</td> </tr> </table>	<b>⑩ 便益の内訳</b>	(全体事業)	(残事業)	人家の便益	255百万円 [187百万円]	213百万円	人的被害の便益	1,556百万円 [731百万円]	1,302百万円	道路の便益	87百万円 [85百万円]	73百万円	その他の便益	33百万円 [42百万円]	27百万円	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;"><b>⑪ 費用の内訳</b></td> <td style="width: 20%; text-align: center;">(全体事業)</td> <td style="width: 20%; text-align: center;">(残事業)</td> </tr> <tr> <td>建設費用</td> <td style="text-align: center;">558百万円 [334百万円]</td> <td style="text-align: center;">133百万円</td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="padding-top: 10px;">                     なお、対策工事の費用の中には測量・設計・調査、用地買収費等も含まれる。                 </td> </tr> </table>	<b>⑪ 費用の内訳</b>	(全体事業)	(残事業)	建設費用	558百万円 [334百万円]	133百万円	なお、対策工事の費用の中には測量・設計・調査、用地買収費等も含まれる。		
<b>⑩ 便益の内訳</b>	(全体事業)	(残事業)																							
人家の便益	255百万円 [187百万円]	213百万円																							
人的被害の便益	1,556百万円 [731百万円]	1,302百万円																							
道路の便益	87百万円 [85百万円]	73百万円																							
その他の便益	33百万円 [42百万円]	27百万円																							
<b>⑪ 費用の内訳</b>	(全体事業)	(残事業)																							
建設費用	558百万円 [334百万円]	133百万円																							
なお、対策工事の費用の中には測量・設計・調査、用地買収費等も含まれる。																									

※ ④、⑩、⑪の[ ]内は「当初」又は「直近の計画変更」の際の数値

※ 総事業費：事業に必要な調査設計費、用地買収費、工事費、事務的経費等の総額

※ 総費用：総事業費に維持管理費(下水道事業は更新費用も含む)を加え、その金額を現在価値化したもの

## 2 評価の視点

### ⑫事業の進捗が遅れている理由（遅れを取り戻す工夫や取組状況も併せて記載のこと）

地質調査の結果、堰堤の基礎地盤が軟弱であることが判明し、基礎地盤の改良が必要となった。

この対応により、事業期間の延伸が必要となった。

### ⑬事業を継続することにより発揮される効果

当該溪流は、溪岸浸食や崩積土の溪床堆積が著しいが、砂防設備が未整備であることから土石流により保全対象に被害を与えるおそれがある。計画している砂防設備を完成させることで、土石流災害から住民の命と暮らしを守り、安全で安心して暮らせる地域を実現する。

### ⑭便益として貨幣換算していないが、事業により見込まれる効果

砂防設備を整備することにより土石流災害のリスクを低減することで、地域住民の安心感の向上に寄与する。県道大桑原芋赤線の保全により、当該地域における住民生活や物流・交流ネットワークの安全を確保することができる。

### ⑮社会経済情勢の変化

特になし

### ⑯B/Cの変化の要因（需要予測等の変化、全体事業費の変化要因について記載）

基礎地盤の対策工事の増工により、総事業費が上昇した。

精神的損害額の増額に伴い、便益が増加したためB/Cが上昇した。

### ⑰コスト縮減、代替案の可能性

経済性や施工性等を比較して、効率的な施設計画としており、現時点においては代替案による計画見直しの予定はない。

### ⑱関係機関等の意向、関連事業と調整状況等

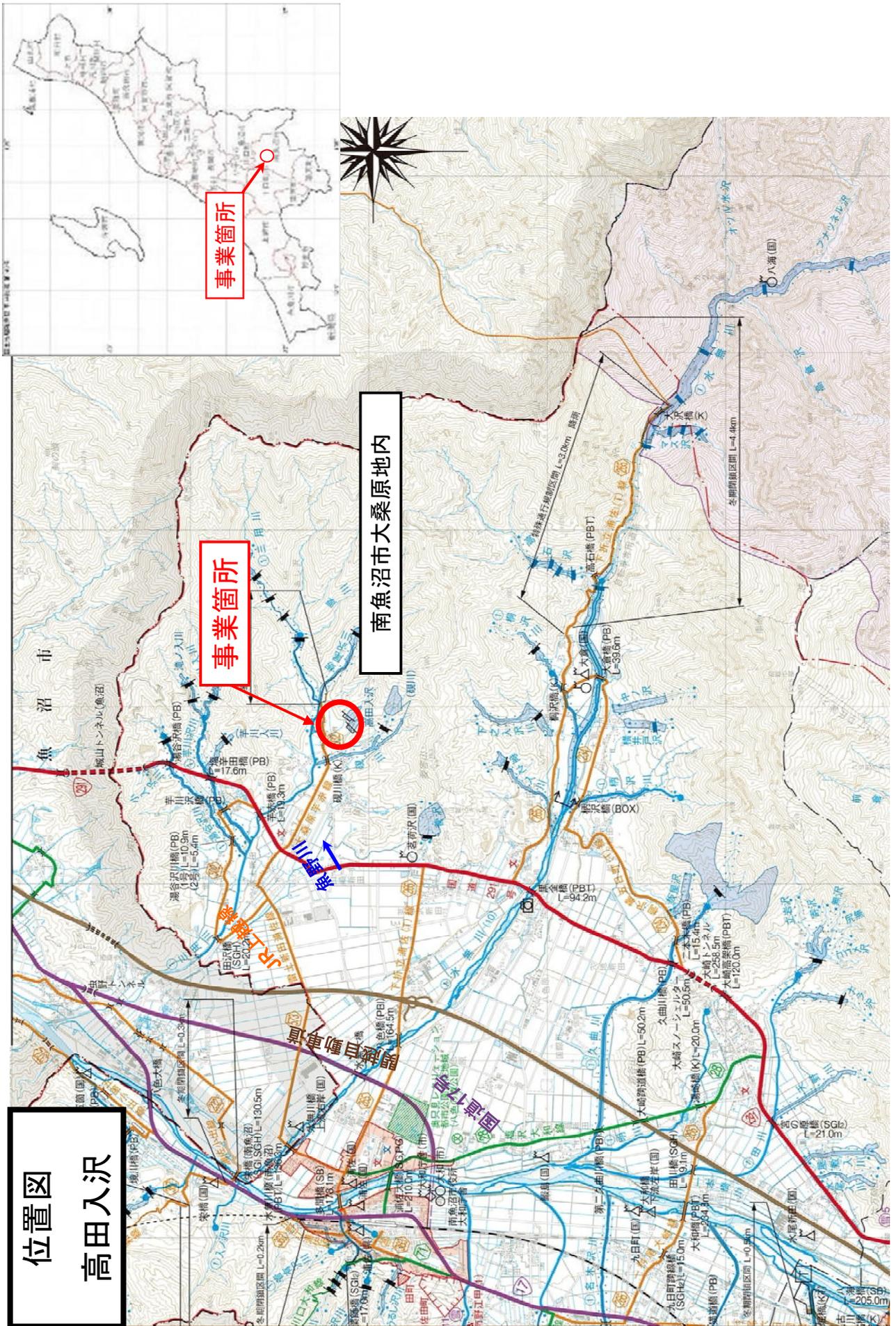
用地買収は完了しており、現在順調に事業を進めている。

## 3 今後の実施方針（案） ※今後の見通しを併せて記載のこと

令和7年度末にB堰堤が完成して令和8年度よりA堰堤に着手する予定である。地域関係者の協力も得られており、順調に事業を進めている。従って、土砂災害から住民の命と暮らしを守るため、事業を継続する必要がある。

#### 4 経緯

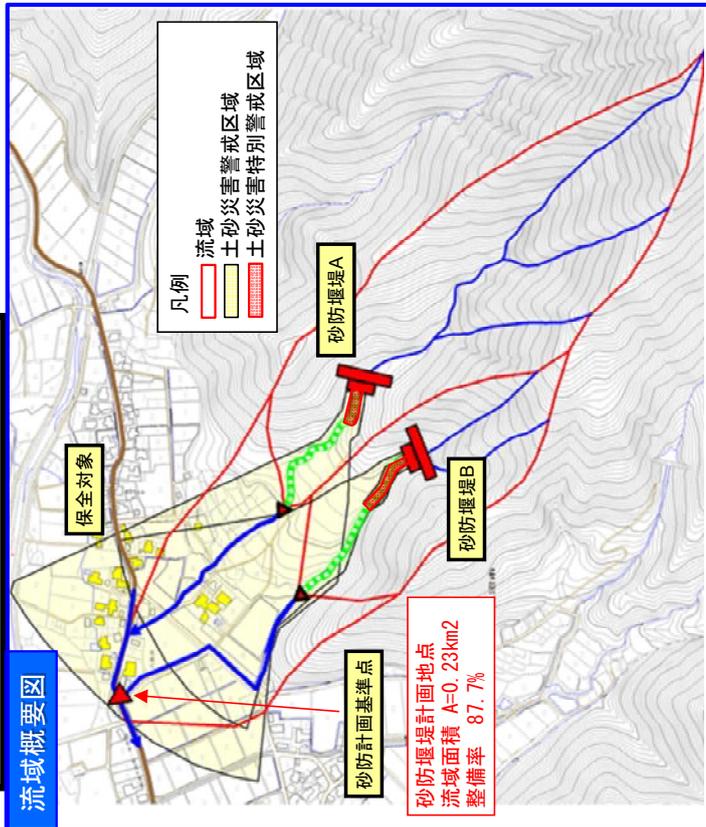
区 分	事業点検 (R3)	今回再評価 (R7)	
工 期	H29～R7 (2017-2025)	H29～R10 (2017～2028)	
総事業費	330百万円	470百万円	
事業内容	(事業内容) 砂防堰堤2基 A堰堤 H=6.5m、L=59.0m V=1,655m <sup>3</sup> B堰堤 H=6.5m、L=62.0m V=1470m <sup>3</sup>	(事業内容) 砂防堰堤2基 A堰堤 H=6.5m、L=59.0m V=1,655m <sup>3</sup> B堰堤 H=6.5m、L=62.0m V=1470m <sup>3</sup>	(残事業内容) 砂防堰堤1基 A堰堤 H=6.5m、L=59.0m V=1,655m <sup>3</sup>
費用対効果 (B/C)	B/C=3.13 (=1,045/334)	B/C=3.46 全体事業 (=1,931/558) B/C=12.12 残事業 (=1,615/133)	



# 流域図・図面・写真

## 高田入沢

流域概要図



土砂流出状況(平成16年7月)



市道への土砂流出



土砂流出(砂防基準点付近)

保全対象施設



県道大桑原芋赤線



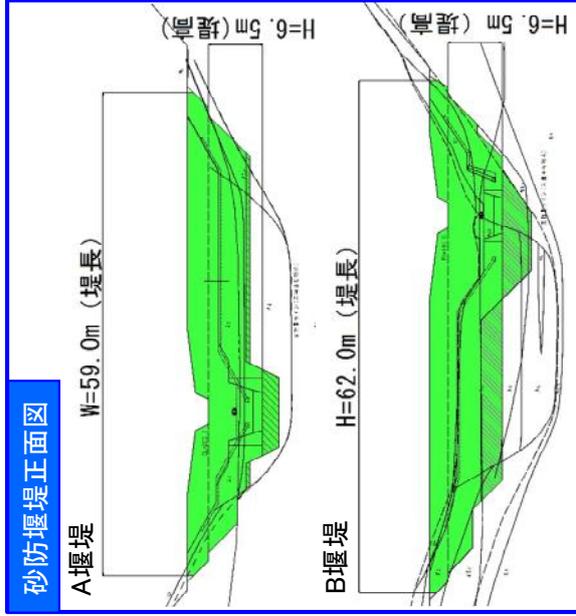
B堰堤整備状況



A堰堤計画位置



砂防堰堤正面図



## 令和7年度公共事業再評価項目表

事業主体	新潟県	事業名	事業関連携砂防等事業（通常砂防事業）
事業箇所	上越市大字南方地内	箇所名	ガキ沢川（がきさわがわ）

### 1 事業の概要

<p><b>① 事業の目的・効果・必要性等</b></p> <p>ガキ沢川は、一級河川関川の幹川飯田川に流下する流域面積A=0.10km<sup>2</sup>、溪床勾配1/3.1~1/6.5の土石流危険渓流（222-I-001）である。</p> <p>当該渓流の溪床には流域全体に不安定土砂が厚く堆積している。流域内に砂防施設が無く、土石流が発生した場合、下流の保全対象に甚大な被害が及ぶ恐れがあるため、当箇所に着手するものである。</p> <p>保全対象は、人家21戸、国道330m、県道380m、その他道路3240m、用水路などがある。</p>																																					
<p><b>② 事業内容</b></p> <p>不透過型砂防堰堤1基 H=11.5m、L=35.0m、V=2,700m<sup>3</sup></p> <p>付替道路（補償工事） L=189m</p>	<p><b>③ 残事業内容</b></p> <p>不透過型砂防堰堤1基 H=11.5m、L=35.0m、V=2,700m<sup>3</sup></p> <p>付替道路（補償工事） L=189m</p>																																				
<p><b>④ 総事業費</b></p> <p>420百万円 [350百万円]</p>	<p><b>⑦ 進捗率（事業費ベース）</b></p> <p>14.3% (=60/420)</p>																																				
<p><b>⑤ 執行済事業費</b></p> <p>60百万円</p>	<p><b>⑧ 現在の費用対効果(B/C) [基準年 R7年]</b></p> <p>全体 B/C=7.67(2984/389)</p> <p>残事業 B/C=8.94(2870/321)</p>																																				
<p><b>⑥ R7年度以降残事業費</b></p> <p>360百万円</p>	<p><b>⑨ 従前の費用対効果(B/C) [基準年 R3年]</b></p> <p>B/C=5.37(1724/321) 当初</p>																																				
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;"><b>⑩ 便益の内訳</b></td> <td style="width: 35%;">（全体事業）</td> <td style="width: 35%;">（残事業）</td> </tr> <tr> <td>人家の便益</td> <td style="text-align: right;">410百万円</td> <td style="text-align: right;">394百万円</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: right;">[313百万円]</td> <td></td> </tr> <tr> <td>人的被害の便益</td> <td style="text-align: right;">2316百万円</td> <td style="text-align: right;">2228百万円</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: right;">[1196百万円]</td> <td></td> </tr> <tr> <td>道路の便益</td> <td style="text-align: right;">202百万円</td> <td style="text-align: right;">195百万円</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: right;">[173百万円]</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他の便益</td> <td style="text-align: right;">56百万円</td> <td style="text-align: right;">53百万円</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: right;">[42百万円]</td> <td></td> </tr> </table>	<b>⑩ 便益の内訳</b>	（全体事業）	（残事業）	人家の便益	410百万円	394百万円		[313百万円]		人的被害の便益	2316百万円	2228百万円		[1196百万円]		道路の便益	202百万円	195百万円		[173百万円]		その他の便益	56百万円	53百万円		[42百万円]		<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;"><b>⑪ 費用の内訳</b></td> <td style="width: 35%;">（全体事業）</td> <td style="width: 35%;">（残事業）</td> </tr> <tr> <td>建設費用</td> <td style="text-align: right;">389百万円</td> <td style="text-align: right;">321百万円</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: right;">[321百万円]</td> <td></td> </tr> </table> <p>なお、対策工事の費用の中には測量・設計・調査、用地買収費等も含まれる。</p>	<b>⑪ 費用の内訳</b>	（全体事業）	（残事業）	建設費用	389百万円	321百万円		[321百万円]	
<b>⑩ 便益の内訳</b>	（全体事業）	（残事業）																																			
人家の便益	410百万円	394百万円																																			
	[313百万円]																																				
人的被害の便益	2316百万円	2228百万円																																			
	[1196百万円]																																				
道路の便益	202百万円	195百万円																																			
	[173百万円]																																				
その他の便益	56百万円	53百万円																																			
	[42百万円]																																				
<b>⑪ 費用の内訳</b>	（全体事業）	（残事業）																																			
建設費用	389百万円	321百万円																																			
	[321百万円]																																				

※ ④、⑩、⑪の[ ]内は「当初」又は「直近の計画変更」の際の数値

※ 総事業費：事業に必要な調査設計費、用地買収費、工事費、事務的経費等の総額

※ 総費用：総事業費に維持管理費(下水道事業は更新費用も含む)を加え、その金額を現在価値化したもの

## 2 評価の視点

<p>⑫事業の進捗が遅れている理由（遅れを取り戻す工夫や取組状況も併せて記載のこと）</p> <p>公図上白地の無地番地が事業用地に隣接しており、境界を確定するために地図訂正、地籍更生が必要となった。 この対応により、事業期間の延伸が必要となった。</p>
<p>⑬事業を継続することにより発揮される効果</p> <p>本砂防堰堤を築設することで、想定する土石流災害から保全対象を保全することができる。</p>
<p>⑭便益として貨幣換算していないが、事業により見込まれる効果</p> <p>本砂防堰堤を築設することで、土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）を解消し、「安全・安心」な生活の基盤となると考える。</p>
<p>⑮社会経済情勢の変化</p> <p>特になし</p>
<p>⑯B/Cの変化の要因（需要予測等の変化、全体事業費の変化要因について記載）</p> <p>精神的損害額の増額に伴い、便益が増加したためB / C が上昇した。</p>
<p>⑰コスト縮減、代替案の可能性</p> <p>経済性や施工性等を比較して、効率的な施設計画としており、現時点においては代替案による計画見直しの予定はない。</p>
<p>⑱関係機関等の意向、関連事業と調整状況 等</p> <p>残り1地権者との交渉のみで、他の地域関係者（付替道路：上越市）との調整済。</p>

## 3 今後の実施方針（案） ※今後の見通しを併せて記載のこと

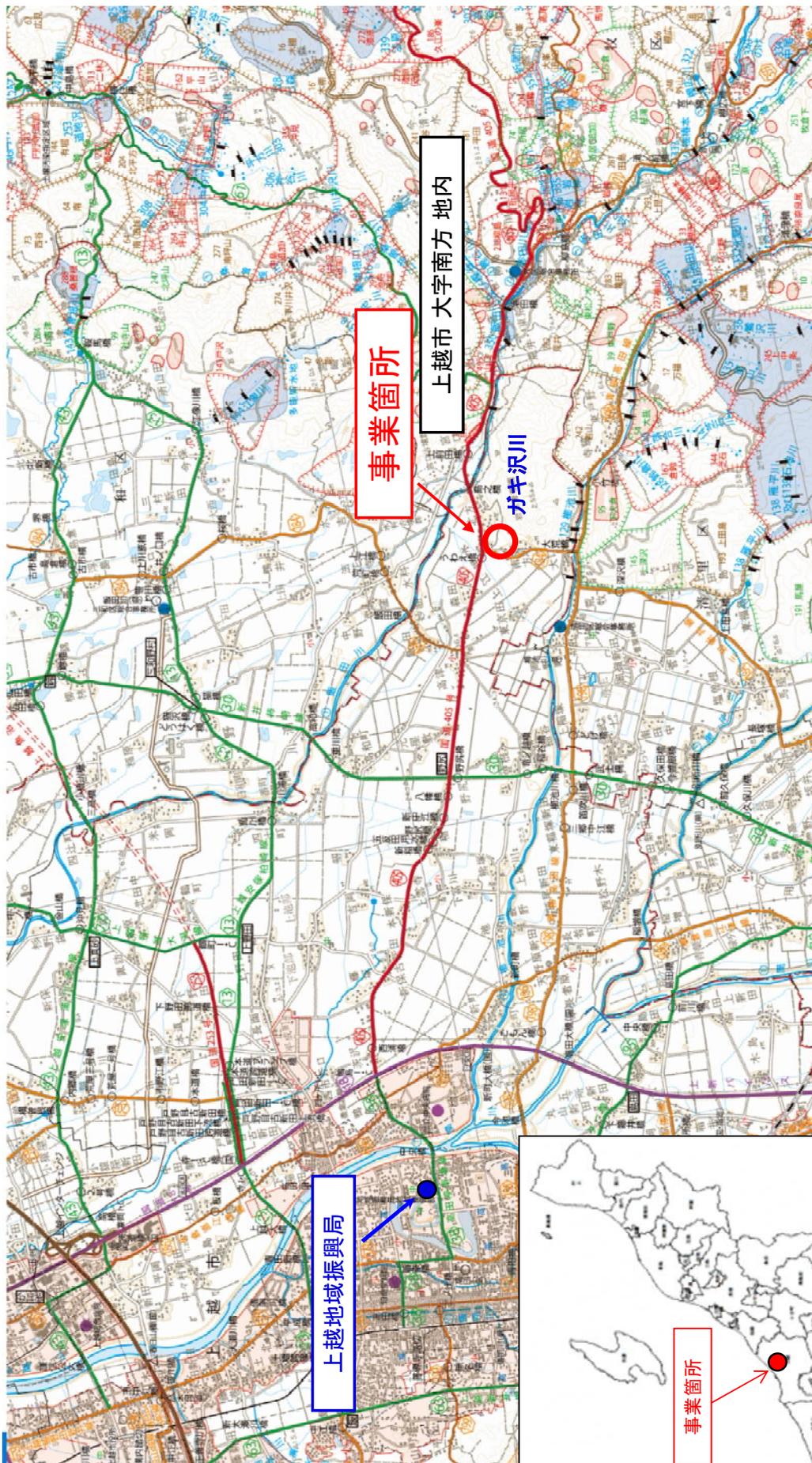
地域関係者の協力も得られており、令和8年度から工事に着手する予定である。  
従って、土砂災害から住民の命と暮らしを守るため、事業を継続する必要がある。

#### 4 経緯

区分	当初(R4)	今回再評価(R7)	
工期	R4~R7 (2022~2025)	R4~R12 (2022~2030)	
総事業費	350百万円	420百万円	
事業内容	(事業内容) 不透過型砂防堰堤 N=1基 H=11.5m L=35.0m V=2,700m <sup>3</sup> 付替道路(補償工事) L=189m	(事業内容) 不透過型砂防堰堤 N=1基 H=11.5m L=35.0m V=2,700m <sup>3</sup> 付替道路(補償工事) L=189m	(残事業内容) 不透過型砂防堰堤 N=1基 H=11.5m L=35.0m V=2,700m <sup>3</sup> 付替道路(補償工事) L=189m
費用対効果 (B/C)	B/C=5.37 (=1724/321)	B/C=7.67 全体事業 (=2984/389) B/C=8.94 残事業 (=2870/321)	

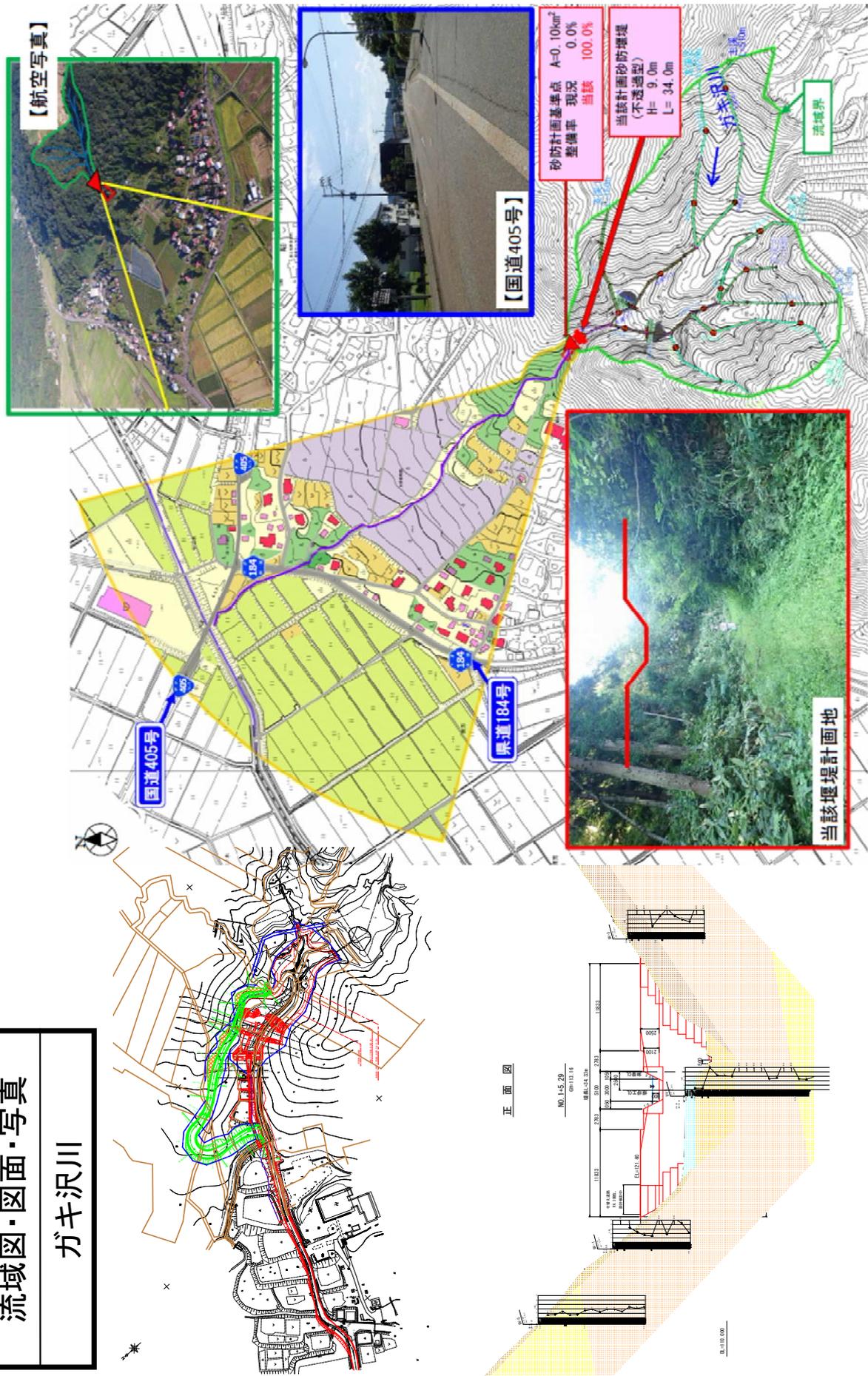
位置図

ガキ沢川



流域図・図面・写真

ガキ沢川



## 令和7年度公共事業再評価項目表

事業主体	新潟県	事業名	大規模特定砂防等事業（通常砂防事業）
事業箇所	妙高市西野谷地内	箇所名	万内川（ばんないがわ）

### 1 事業の概要

<p><b>① 事業の目的・効果・必要性等</b></p> <p>万内川上流域で令和元年10月の台風19号の豪雨に起因した大規模な山腹斜面の崩壊・地すべりが発生し、崩壊した土砂が斜面および河道に堆積した。万内川と重倉川合流点より下流には、西野谷・西野谷新田地区があり、今後の豪雨等に伴い斜面・河道の堆積物が下流へ流出・氾濫した場合、甚大な被害を与える可能性が極めて高い。また、堆積土砂が流出した場合には文化財に登録されている堰堤群や砂防公園も被害を受ける恐れがある。</p> <p>そのため、砂防施設を改築することで下流域の集落、生活施設、文化財を土砂災害から守り、民生の安定を図るものである。</p> <p>保全対象は、人家49戸、公共施設（避難所）2箇所、事業所1箇所、県道2120m、市道4090m、橋梁6基、耕作地32.3haなどがある。</p>																																																									
<p><b>② 事業内容</b></p> <p>部分透過型砂防堰堤1基 H=11.5m、L=149.0m、V=4,200m<sup>3</sup></p>	<p><b>③ 残事業内容</b></p> <p>部分透過型砂防堰堤1基 H=11.5m、L=149.0m、V=4,200m<sup>3</sup></p>																																																								
<p><b>③ 総事業費</b></p> <p>650百万円 [450百万円]</p>	<p><b>⑦ 進捗率（事業費ベース）</b></p> <p>14.4% (= 93.6/650)</p>																																																								
<p><b>⑤ 執行済事業費</b></p> <p>93.6百万円</p>	<p><b>⑧ 現在の費用対効果(B/C) [基準年 R7年]</b></p> <p>全体B/C=2.90(1682/580) 残事業B/C=3.37(1616/479)</p>																																																								
<p><b>⑥ R7年度以降残事業費</b></p> <p>556.4百万円</p>	<p><b>⑨ 従前の費用対効果(B/C) [基準年 R5年]</b></p> <p>B/C=3.06(1221/398) 計画変更</p>																																																								
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;"><b>⑩ 便益の内訳</b></td> <td style="width: 35%;"></td> <td style="width: 15%;"></td> <td style="width: 35%;"></td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">（全体事業）</td> <td style="text-align: center;">（残事業）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>人家の便益</td> <td style="text-align: right;">188百万円</td> <td style="text-align: right;">181百万円</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: right;">[208百万円]</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>人的被害の便益</td> <td style="text-align: right;">1071百万円</td> <td style="text-align: right;">1029百万円</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: right;">[527百万円]</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>道路の便益</td> <td style="text-align: right;">167百万円</td> <td style="text-align: right;">160百万円</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: right;">[171百万円]</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他の便益</td> <td style="text-align: right;">256百万円</td> <td style="text-align: right;">246百万円</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: right;">[315百万円]</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	<b>⑩ 便益の内訳</b>					（全体事業）	（残事業）		人家の便益	188百万円	181百万円			[208百万円]			人的被害の便益	1071百万円	1029百万円			[527百万円]			道路の便益	167百万円	160百万円			[171百万円]			その他の便益	256百万円	246百万円			[315百万円]			<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;"><b>⑪ 費用の内訳</b></td> <td style="width: 35%;"></td> <td style="width: 15%;"></td> <td style="width: 35%;"></td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">（全体事業）</td> <td style="text-align: center;">（残事業）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>建設費用</td> <td style="text-align: right;">580百万円</td> <td style="text-align: right;">479百万円</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: right;">[398百万円]</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>なお、対策工事の費用の中には測量・設計・調査、用地買収費等も含まれる。</p>	<b>⑪ 費用の内訳</b>					（全体事業）	（残事業）		建設費用	580百万円	479百万円			[398百万円]		
<b>⑩ 便益の内訳</b>																																																									
	（全体事業）	（残事業）																																																							
人家の便益	188百万円	181百万円																																																							
	[208百万円]																																																								
人的被害の便益	1071百万円	1029百万円																																																							
	[527百万円]																																																								
道路の便益	167百万円	160百万円																																																							
	[171百万円]																																																								
その他の便益	256百万円	246百万円																																																							
	[315百万円]																																																								
<b>⑪ 費用の内訳</b>																																																									
	（全体事業）	（残事業）																																																							
建設費用	580百万円	479百万円																																																							
	[398百万円]																																																								

※ ④、⑩、⑪の [ ]内は「当初」又は「直近の計画変更」の際の数値

※ 総事業費：事業に必要な調査設計費、用地買収費、工事費、事務的経費等の総額

※ 総費用：総事業費に維持管理費（下水道事業は更新費用も含む）を加え、その金額を現在価値化したもの

## 2 評価の視点

### ⑫事業の進捗が遅れている理由（遅れを取り戻す工夫や取組状況も併せて記載のこと）

地質調査の結果、基礎地盤が軟弱であり、軟弱層の層厚が厚く、基礎改良による対応が困難であることが判明した。そのため、改めて調査及び設計を行う必要が生じた。  
この対応により、事業期間の延伸が必要となった。

### ⑬事業を継続することにより発揮される効果

本砂防堰堤を改築することで、想定する土石流災害から保全対象を保全することができる。

### ⑭便益として貨幣換算していないが、事業により見込まれる効果

本砂防堰堤を改築することで、登録有形文化財に登録されている11基の施設（現地産の石で精巧に組上げられた石積堰堤）が、土石流などによる損傷から軽減・保全され、周囲の自然環境と調和した美しさと技術の高さを後世へ伝承することができる。

### ⑮社会経済情勢の変化

特になし。

### ⑯B/Cの変化の要因（需要予測等の変化、全体事業費の変化要因について記載）

精神的損害額の増額に伴い、便益が上昇した。  
堰堤適地の再調査に修正設計により、総事業費が増加したため、B/Cが低下した。

### ⑰コスト縮減、代替案の可能性

経済性や施工性等を比較して、効率的な施設計画としており、現時点においては代替案による計画見直しの予定はない。

### ⑱関係機関等の意向、関連事業と調整状況 等

用地買収は1筆を残しているものの、令和7年度中に全筆買収できる目途が立ち、順調に事業を進めている。

## 3 今後の実施方針（案） ※今後の見通しを併せて記載のこと

地域関係者の協力も得られており、令和8年度から工事に着手する予定である。  
従って、土砂災害から住民の命と暮らしを守るため、事業を継続する必要がある。

#### 4 経緯

区分	当初 (R4)	今回再評価 (R7)	
工期	R4～R7 (2022～2025)	R4～R14 (2022～2032)	
総事業費	450百万円	650百万円	
事業内容	(事業内容) 砂防堰堤 N=1基 H=8.5m L=64.0m V=3,700m <sup>3</sup>	(事業内容) 部分透過型砂防堰堤 N=1基 H=11.5m L=149.0m V=4,200m <sup>3</sup>	(残事業内容) 部分透過型砂防堰堤 N=1基 H=11.5m L=149.0m V=4,200m <sup>3</sup>
費用対効果 (B/C)	B/C=3.06 (=1221/398)	B/C=2.90 全体事業 (=1682/580) B/C=3.37 残事業 (=1616/479)	







## 2 評価の視点

### ⑫事業の進捗が遅れている理由（遅れを取り戻す工夫や取組状況も併せて記載のこと）

2号堰堤の施工中であった令和3年8月に、掘削面から肌落ちや段差を伴う開口亀裂による地すべりの兆候が確認された。この現象に対する調査及び地すべり対策に不測の期間を要したため、事業進捗が遅れることとなった。地すべり対策を実施するに当たり、堰堤工の計画に影響が出ないよう対策方法を検討し、事業の遅れが最小限となるよう取り組んだ。

### ⑬事業を継続することにより発揮される効果

当該流域は、平成24年4月に融雪に伴う地すべり崩壊が発生し、崩壊土砂が土石流となって沢谷川を流下、下流の能生川まで土砂が到達した被害を確認しており、今後の出水により土石流が発生して保全対象に被害を与えるおそれがある。

計画している砂防堰堤を完成させることで、土石流災害から住民の命と暮らしを守り、安全で安心して暮らせる地域を実現する。

### ⑭便益として貨幣換算していないが、事業により見込まれる効果

砂防堰堤を整備することにより、土石流災害のリスクを低減することで、地域住民の安心感の向上に寄与する。

一般県道西飛山能生線の保全により、当該地域における住民生活や物流・交流ネットワークの安全を確保することが出来る。

### ⑮社会経済情勢の変化

特になし

### ⑯B/Cの変化の要因（需要予測等の変化、全体事業費の変化要因について記載）

地すべり対策を実施したことにより、事業費が増加したため、B/Cが低下した。

### ⑰コスト縮減、代替案の可能性

経済性や施工性等を比較して、効率的な施設計画としており、現時点においては代替案による計画の見直しの予定はない。

### ⑱関係機関等の意向、関連事業と調整状況 等

用地買収は令和8年度に完了の見込みであり、現在順調に事業を進めている。

## 3 今後の実施方針（案） ※今後の見通しを併せて記載のこと

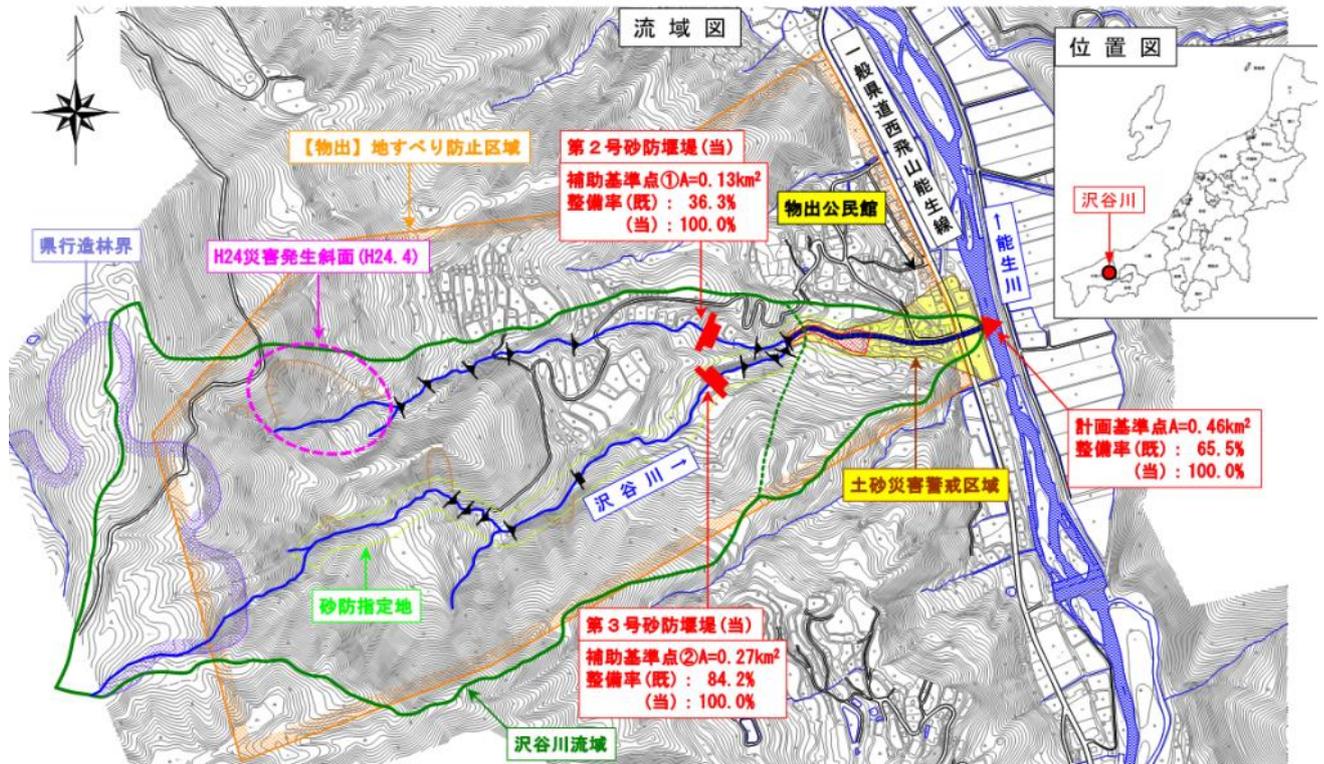
2号堰堤施工箇所地すべり対策は令和7年8月に完了したため、次年度から堰堤工を再開する予定である。2号堰堤の設置における今後の支障となるものはなく、早期の効果発現に向けて引き続き進捗を図る。

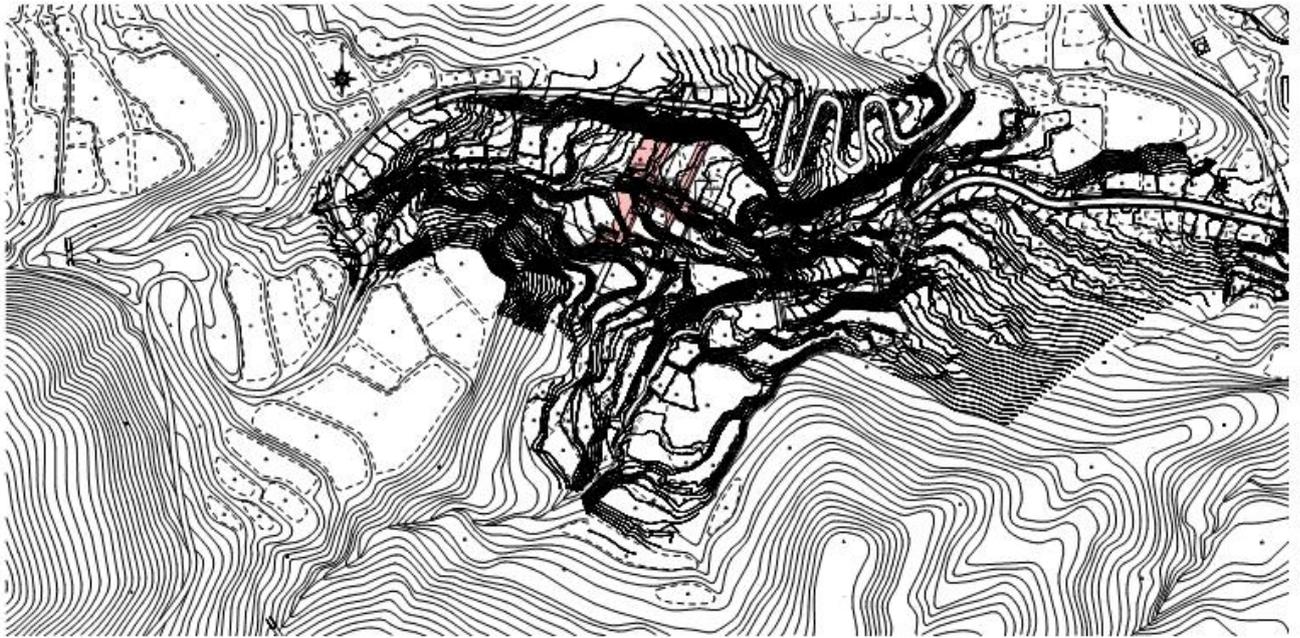
#### 4 経緯

区分	当初	事業点検(R2)	
工期	H28～R2 (2016～2020)	H28～R7 (2016～2025)	
総事業費	269百万円	599百万円	
事業内容	(事業内容) 砂防堰堤1基 ・2号堰堤(不透過型) H=12.0m、L=95.0m V=5,100m <sup>3</sup>	(事業内容) 砂防堰堤2基 ・2号堰堤(不透過型) H=12.0m、L=68.0m V=5,935m <sup>3</sup> ・3号堰堤(不透過型) H=6.0m、L=44.0m V=2,150m <sup>3</sup> ・法面对策工 1式	(事業内容) 砂防堰堤2基 ・2号堰堤(不透過型) H=12.0m、L=68.0m V=5,935m <sup>3</sup> ・3号堰堤(不透過型) H=6.0m、L=44.0m V=2,150m <sup>3</sup>
費用対効果 (B/C)	B/C=1.37 (=673/491)	B/C=1.35 (=746/552)	

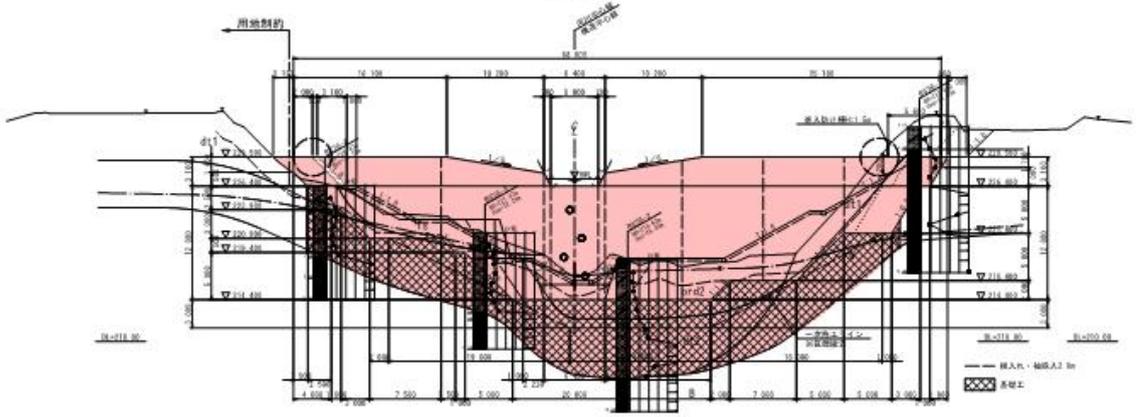
区分	今回再評価(R7)	
工期	H28～R12 (2016～2030)	
総事業費	634百万円	
事業内容	(事業内容) 砂防堰堤2基 ・2号堰堤(不透過型) H=12.0m、L=68.0m V=5,935m <sup>3</sup> ・3号堰堤(不透過型) H=6.0m、L=44.0m V=2,150m <sup>3</sup>	(残事業内容) 砂防堰堤2基 ・2号堰堤(不透過型) H=12.0m、L=68.0m V=5,935m <sup>3</sup> ・3号堰堤(不透過型) H=6.0m、L=44.0m V=2,150m <sup>3</sup>
費用対効果 (B/C)	B/C=1.34 全体事業 (=893/668) B/C=2.17 残事業 (=781/360)	

さわたにがわ  
能生川水系 沢谷川 通常砂防事業(新潟県糸魚川市 大字物出地内)

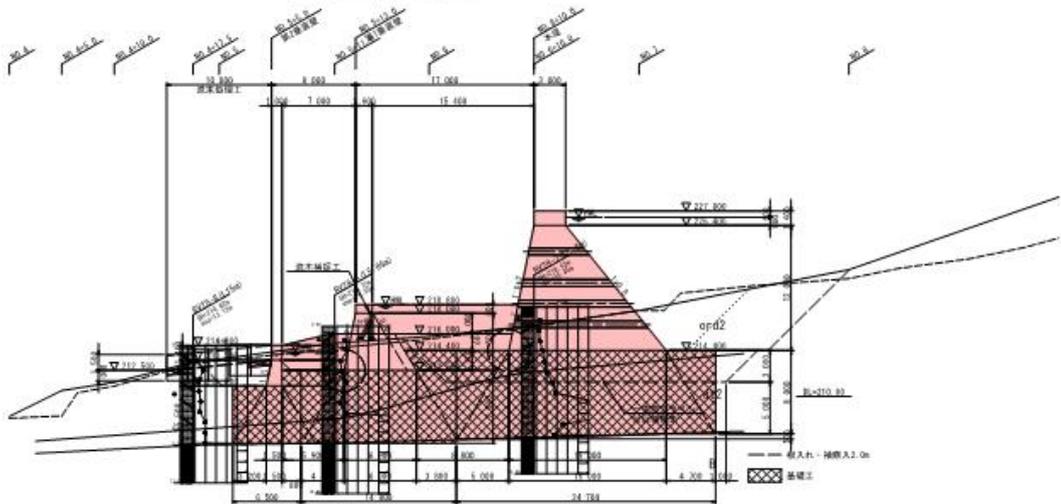




本堤正面图  
NO. 6+10.0



侧面图



## 令和7年度 再評価実施後5年経過した事業箇所の再評価項目表

事業主体	新潟県	事業名	防災・安全交付金（通常砂防事業）
事業箇所	佐渡市相川中寺町地内	箇所名	間切川（まぎりがわ）

### 1 事業の概要

<p><b>① 事業の目的・効果・必要性等</b></p> <p>間切川は、旧相川町の中心市街地を貫流する二級河川である。流域内は山腹崩壊や溪岸侵食の進行が著しく、溪床にも不安定土砂が厚く堆積しており、平成14年7月には土砂混じりの出水が発生している。</p> <p>また、当流域内には砂防施設がなく、豪雨等により不安定土砂が土石流となって一気に流下し、下流の保全対象に甚大な被害を及ぼすおそれがある。このため、砂防堰堤2基を整備し地域の安全を図るものである。</p> <p>保全対象としては、人家78戸、市道997m、保育園1箇所、診療所1箇所などがある。</p>	
<p><b>② 事業内容</b></p> <p>第1号砂防堰堤（不透過型） H=9.5m、L=50.0m、V=2,930m<sup>3</sup> 護岸工 一式</p> <p>第2号砂防堰堤（透過型） H=9.0m、L=31.0m、V=751m<sup>3</sup></p>	<p><b>③ 残事業内容</b></p> <p>第1号砂防堰堤（不透過型） 護岸工 一式</p> <p>第2号砂防堰堤（透過型） H=9.0m、L=31.0m、V=751m<sup>3</sup></p>
<p><b>④ 総事業費</b> 1,116百万円 [860百万円]</p>	<p><b>⑦ 進捗率（事業費ベース）</b> 77.9% (=869/1,116)</p>
<p><b>⑤ 執行済事業費</b> 869百万円 [417百万円]</p>	<p><b>⑧ 現在の費用対効果(B/C) [基準年 R7年]</b> 全体B/C=2.50(3,595/1,438) 残事業B/C=11.98(2,635/220)</p>
<p><b>⑥ R7年度以降残事業費</b> 247百万円 [443百万円]</p>	<p><b>⑨ 従前の費用対効果(B/C) [基準年 R2年]</b> B/C=2.39(2,042/856)</p>
<p><b>⑩ 便益の内訳</b> (全体事業) (残事業)</p> <p>人家の便益 257百万円 196百万円 [394百万円]</p> <p>人的被害の便益 3,103百万円 2,275百万円 [1,533百万円]</p> <p>道路の便益 26百万円 19百万円 [16百万円]</p> <p>その他の便益 209百万円 145百万円 [99百万円]</p>	<p><b>⑪ 費用の内訳</b> (全体事業) (残事業)</p> <p>建設費用 1,438百万円 220百万円 [856百万円]</p> <p>なお、対策工事の費用の中には測量・設計・調査、用地買収費等も含まれる。</p>

※ ④～⑥、⑩、⑪の[ ]内は前回再評価時の数値

※ 総事業費：事業に必要な調査設計費、用地買収費、工事費、事務的経費等の総額

※ 総費用：総事業費に維持管理費(下水道事業は更新費用も含む)を加え、その金額を現在価値化したもの

## 2 評価の視点

<p>⑫事業の進捗が遅れている理由（前回評価時からの変化、遅れを取り戻す工夫や取組状況も併せて記載）</p> <p>令和7年に護岸工の施工中に左岸側で法面の崩壊が発生したため、調査・設計及び斜面对策工事が新たに必要となった。</p> <p>この対応により、事業期間の延伸が必要となった。</p>
<p>⑬事業を継続することにより発揮される効果（前回評価時からの変化についても記載）</p> <p>当該溪流は荒廃が進んでいるものの砂防施設がないことから、土石流が発生すると相川中心市街地への甚大な被害が予想される。</p> <p>計画している砂防施設を完成させることで、土石流災害から人命・財産を守り、民生の安定が確保される。</p>
<p>⑭便益として貨幣換算していないが、事業により見込まれる効果</p> <p>主要地方道相川沢田線等の保全により、当該地域における住民生活や物流・交流ネットワークの安全を確保することができる。</p>
<p>⑮社会経済情勢の変化（前回評価時からの変化についても記載）</p> <p>特になし。</p>
<p>⑯B/Cの変化の要因（前回評価時から需要予測等の変化、全体事業費の変化要因について記載）</p> <p>崩壊した法面の対策工事の増工により、総事業費が上昇した</p> <p>精神的損害額の増額に伴い、便益が増加したためB/Cが上昇した。</p>
<p>⑰コスト縮減、代替案の可能性（前回評価時からの変化についても記載）</p> <p>砂防施設については、経済性や施工性等を比較して最も効果的な施設配置計画としているため、代替案による計画見直しは必要ない。</p> <p>2号堰堤の工事用道路については、遺跡の配置も考慮し、経済的なルートを検討し設計業務を進める。</p>
<p>⑱関係機関等の意向、関連事業と調整状況等（前回評価時からの変化についても記載）</p> <p>1号堰堤の用地買収は追加となった法面对策箇所を除き完了しており、法面对策箇所に係る事業用地についても地権者と調整済みの上で工事を進めている。</p> <p>また、2号堰堤に係る関係機関協議の方向性は整っている。</p>

## 3 今後の実施方針（案） ※今後の見通しを併せて記載のこと

<p>第1号堰堤工事と並行して、第2号堰堤に係る関係機関協議及び設計業務を進めていく。</p> <p>2号堰堤に係る関係機関協議の方向性は概ね整っていることから、事業を進める上で大きな支障はない。</p> <p>従って、土石流災害から人命・財産等を守るため、事業を継続する必要がある。</p>
--

#### 4 経緯

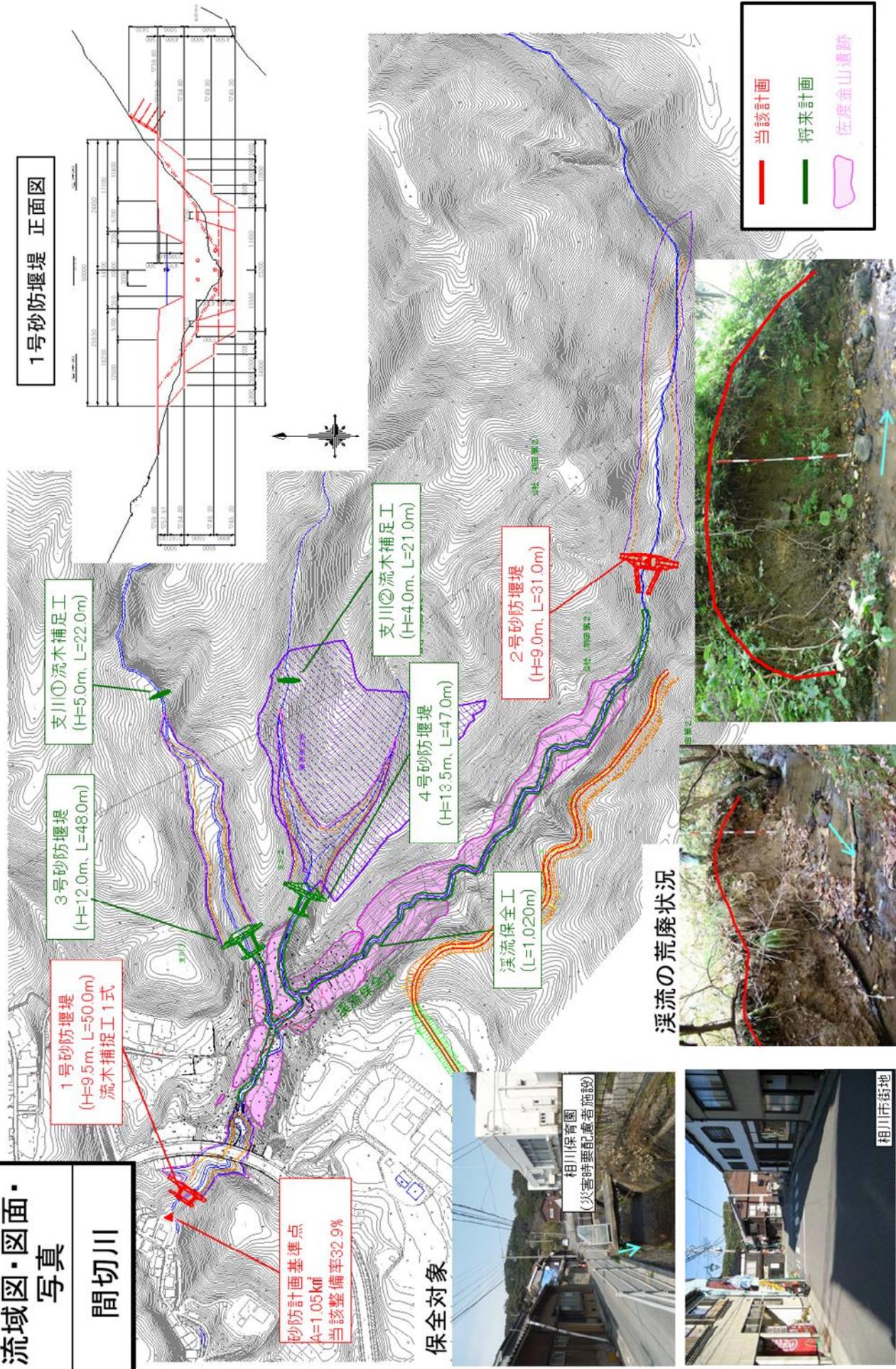
区分	当初(H23)	計画変更(H25)	再評価(H27)	
工期	H23～H30 (2011～2018)	H23～R5 (2011～2023)	H23～R5 (2011～2023)	
総事業費	390百万円	730百万円	730百万円	
事業内容	(事業内容) 第1号砂防堰堤 高さH=9.5m 長さL=53.0m V=4,180m <sup>3</sup> 流木捕捉工 高さH=5.0m 長さL=44.0m V=440m <sup>3</sup>	(事業内容) 第1号砂防堰堤 高さH=9.5m 長さL=50.0m V=3,890m <sup>3</sup> 第2号砂防堰堤 高さH=14.5m 長さL=48.0m V=5,190m <sup>3</sup> 流木捕捉工 高さH=5.0m 長さL=37.0m V=400m <sup>3</sup>	(事業内容) 第1号砂防堰堤 高さH=9.5m 長さL=50.0m V=3,890m <sup>3</sup> 第2号砂防堰堤 高さH=14.5m 長さL=48.0m V=5,190m <sup>3</sup> 流木捕捉工 高さH=5.0m 長さL=37.0m V=400m <sup>3</sup>	(残事業内容) 第1号砂防堰堤 高さH=9.5m 長さL=50.0m V=3,890m <sup>3</sup> 第2号砂防堰堤 高さH=14.5m 長さL=48.0m V=5,190m <sup>3</sup> 流木捕捉工 高さH=5.0m 長さL=37.0m V=400m <sup>3</sup>
費用対効果 (B/C)	B/C=5.86 (=2,127/363)	B/C=2.82 (=1,693/601)	B/C=2.79 全体事業 (=1,748/626)	

区分	再々評価(R2)		再々再評価(R7)	
工期	H23～R10 (2011～2028)		H23～R13 (2011～2031)	
総事業費	860百万円		1,116百万円	
事業内容	(事業内容) 第1号砂防堰堤 高さH=9.5m 長さL=50.0m V=2,930m <sup>3</sup> 流木捕捉工 1式 第2号砂防堰堤 高さH=9.0m 長さL=31.0m V=751m <sup>3</sup>	(残事業内容) 第1号砂防堰堤 高さH=9.5m 長さL=50.0m V=235m <sup>3</sup> 流木捕捉工 1式 第2号砂防堰堤 高さH=9.0m 長さL=31.0m V=751m <sup>3</sup>	(事業内容) 第1号砂防堰堤 高さH=9.5m 長さL=50.0m V=2,930m <sup>3</sup> 護岸工 1式 流木捕捉工 1式 第2号砂防堰堤 高さH=9.0m 長さL=31.0m V=751m <sup>3</sup>	(残事業内容) 第1号砂防堰堤 護岸工 1式 第2号砂防堰堤 高さH=9.0m 長さL=31.0m V=751m <sup>3</sup>
費用対効果 (B/C)	B/C=2.39 全体事業 (=2,042/856)		B/C=2.50 全体事業 (=3,595/1,438) B/C=11.98 残事業 (=2,635/220)	

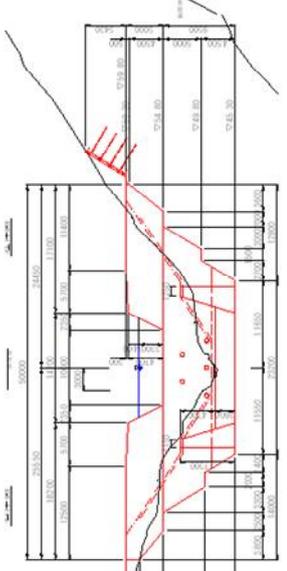


流域図・図面  
写真

間切川



1号砂防堰堤 正面図



砂防計画基準点  
A=1.05km<sup>2</sup>  
当該整備率32.9%

保全対象



溪流の荒廃状況



令和7年度 再評価実施後5年経過した事業箇所の再評価項目表

事業主体	新潟県	事業名	防災・安全交付金（離島通常砂防事業）
事業箇所	佐渡市椎泊地内	箇所名	野々田沢（ののださわ）

1 事業の概要

<p>① 事業の目的・効果・必要性等</p> <p>野々田沢は、佐渡東部に位置し、山地斜面を1/6～1/7程度の勾配で流下した後、佐渡市椎泊集落を経て日本海へ注ぐ流域面積 0.38km<sup>2</sup>の土石流危険溪流である。</p> <p>流域は溪岸浸食や崩積土の溪床堆積が著しく、今後の出水により土石流が発生して下流保全対象に甚大な被害を与えるおそれがあることから、砂防堰堤2基を設置し、民生の安定化を図るものである。</p> <p>保全対象は、人家47戸、県道320m、市道2,370m、耕地19haなどがある。</p>	
<p>② 事業内容</p> <p>砂防堰堤 2基</p> <p>1号堰堤 H=13.0m、L=44.0m、V=3,920m<sup>3</sup></p> <p>2号堰堤 H=6.5m、L=34.0m、V=1,396m<sup>3</sup></p>	<p>② 残事業内容</p> <p>砂防堰堤 1基</p> <p>2号堰堤 H=6.5m、L=34.0m、V=1,396m<sup>3</sup></p>
<p>④ 総事業費</p> <p>920百万円 [505百万円]</p>	<p>⑦ 進捗率（事業費ベース）</p> <p>73.4% (=676/920)</p>
<p>⑤ 執行済事業費</p> <p>676百万円 [386百万円]</p>	<p>⑧ 現在の費用対効果(B/C) [基準年 R7年]</p> <p>全体B/C=3.28(3,886/1,185)</p> <p>残事業B/C=13.15(2,893/220)</p>
<p>⑥ R7年度以降残事業費</p> <p>244百万円 [119百万円]</p>	<p>⑨ 従前の費用対効果(B/C) [基準年 R4年]</p> <p>B/C=3.04(1,840/604)</p>
<p>⑩ 便益の内訳 (全体事業) (残事業)</p> <p>人家の便益 421百万円 204百万円 [400百万円]</p> <p>人的被害の便益 3,319百万円 2,471百万円 [1,313百万円]</p> <p>道路の便益 93百万円 69百万円 [92百万円]</p> <p>その他の便益 53百万円 149百万円 [35百万円]</p>	<p>⑪ 費用の内訳 (全体事業) (残事業)</p> <p>建設費用 1,185百万円 220百万円 [604百万円]</p> <p>なお、対策工事の費用の中には測量・設計・調査、用地買収費等も含まれる。</p>

※ ④～⑥、⑩、⑪の[ ]内は前回再評価時の数値

※ 総事業費：事業に必要な調査設計費、用地買収費、工事費、事務的経費等の総額

※ 総費用：総事業費に維持管理費(下水道事業は更新費用も含む)を加え、その金額を現在価値化したもの

## 2 評価の視点

### ⑫事業の進捗が遅れている理由（前回評価時からの変化、遅れを取り戻す工夫や取組状況も併せて記載）

野々田沢は全体計画では2基（1号堰堤、2号堰堤）の砂防堰堤が必要であるが、2号堰堤は付替林道および工事用道路の線形について地元調整が難航することがわかっていたため、1号堰堤のみで事業化した。その後、地元との調整が整ったことから、2号堰堤の計画を追加する。  
これに伴い、事業費が増加し事業期間の延伸が必要となった。

### ⑬事業を継続することにより発揮される効果（前回評価時からの変化についても記載）

当該溪流は、溪岸浸食や崩積土の溪床堆積が著しいが、砂防設備が未整備であることから土石流により土石流により保全対象に被害を与えるおそれがある。

計画している砂防堰堤を完成させることにより、土石流災害から住民の命と暮らしを守り、安全で安心して暮らせる地域を実現する。

### ⑭便益として貨幣換算していないが、事業により見込まれる効果

砂防堰堤を整備することにより土石流災害のリスクを低減することで、地域住民の安心感の向上に寄与する。

主要地方道佐渡一周線の保全により、当該地域における住民生活や物流・交流ネットワークの安全を確保することができる。

### ⑮社会経済情勢の変化（前回評価時からの変化についても記載）

特になし。

### ⑯B/Cの変化の要因（前回評価時から需要予測等の変化、全体事業費の変化要因について記載）

精神的損害額の増額に伴い、便益が増加したためB/Cが上昇した。

### ⑰コスト縮減、代替案の可能性（前回評価時からの変化についても記載）

経済性や施工性等を比較して、効率的な施設計画としており、現時点においては代替案による計画見直しの予定はない。

### ⑱関係機関等の意向、関連事業と調整状況等（前回評価時からの変化についても記載）

1号堰堤の用地買収は完了しており、2号堰堤に係る関係機関協議の方向性は整っている。

## 3 今後の実施方針（案） ※今後の見通しを併せて記載のこと

これまでの事業実施により、砂防堰堤1基が完了し、令和8年度より残り1基の砂防堰堤工に着手する予定である。

また、地域関係者の協力も得られており、順調に事業を進めている。

従って、土砂災害から住民の命と暮らしを守るため、事業を継続する必要がある。

#### 4 経緯

区分	当初(H25)	計画変更(H28)	事業点検(H29)	計画変更(R2)
工期	H25～H28 (2013～2016)	H25～H32 (2013～2020)	H25～H32 (2013～2020)	H25～R7 (2013～2025)
総事業費	390百万円	390百万円	390百万円	505百万円
事業内容	(事業内容) 砂防堰堤 1基 1号堰堤 H=13.0m L=44.0m V=3,920m <sup>3</sup>	(事業内容) 砂防堰堤 1基 1号堰堤 H=13.0m L=44.0m V=3,920m <sup>3</sup>	(事業内容) 砂防堰堤 1基 1号堰堤 H=13.0m L=44.0m V=3,920m <sup>3</sup>	(事業内容) 砂防堰堤 1基 1号堰堤 H=13.0m L=44.0m V=3,920m <sup>3</sup> 地すべり対策工 1式 アンカー工 N=30本
費用対効果 (B/C)	B/C=4.31 (=1,564/363)	-	B/C=4.30 (=1,609/374)	-

区分	前回再評価(R4)		今回再々評価(R7)	
工期	H25～R7 (2013～2025)		H25～R12 (2013～2030)	
総事業費	505百万円		920百万円	
事業内容	(事業内容) 砂防堰堤工 1基 1号堰堤 H=13.0m L=44.0m V=3,920m <sup>3</sup>	(残事業内容) 砂防堰堤工 1基 1号堰堤 H=13.0m L=44.0m V=1,730m <sup>3</sup>	(事業内容) 砂防堰堤工 2基 1号堰堤 H=13.0m L=44.0m V=3,920m <sup>3</sup> 2号堰堤 H=6.5m L=34.0m V=1,396m <sup>3</sup>	(残事業内容) 砂防堰堤工 1基 2号堰堤 H=6.5m L=34.0m V=1,396m <sup>3</sup>
費用対効果 (B/C)	B/C=3.04 全体事業 (=1,840/604)		B/C=3.28 全体事業 (=3,886/1,185) B/C=13.15 残事業 (=2,893/220)	



# 流域図・図面

・写真

野々田沢

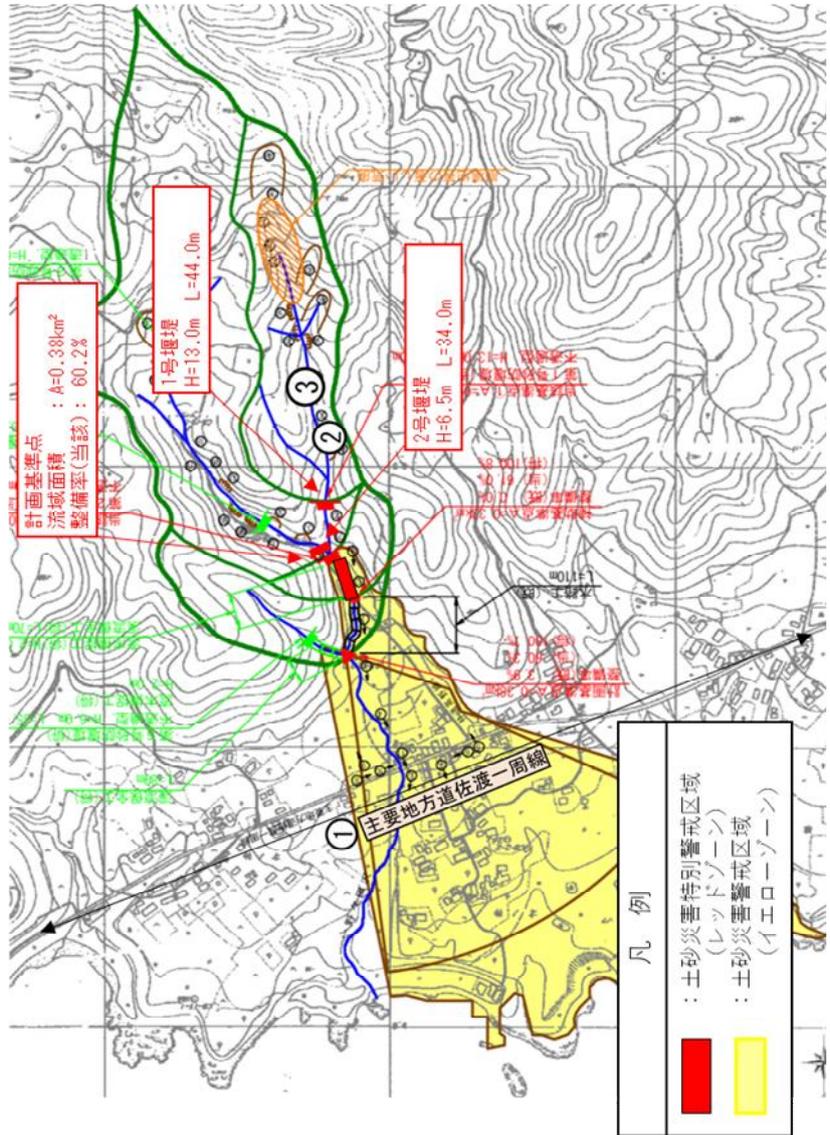
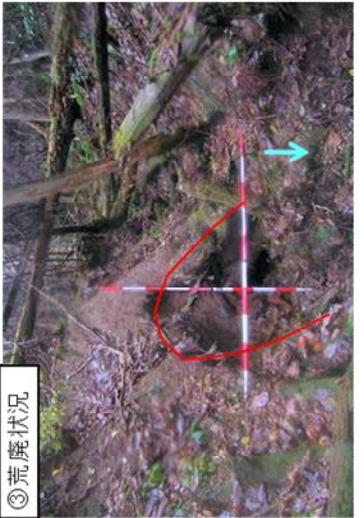
①保全対象（人家及び県道）



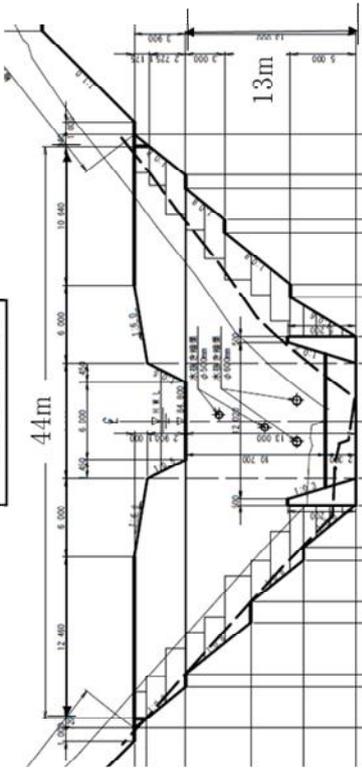
②荒廃状況



③荒廃状況



1号堰堤正面図



1号堰堤側面図

